

## 資料 6

提	1
総 会	190

### 提 案

「声明（案）日本学術会議のより良い役割発揮に向けた基本的考え方（案）  
－自由な発想を活かした、しなやかな発展のための協議に向けて－」について

1 提案者 会長

2 議 案 標記について、別紙に基づき承認を求めること

3 提案理由 「声明（案）日本学術会議のより良い役割発揮に向けた基本的考え方  
（案）－自由な発想を活かした、しなやかな発展のための協議に向けて－」  
について承認を求めるものである。



## 声 明（案）

日本学術会議のより良い役割発揮に向けた基本的考え方（案）

—自由な発想を活かした、しなやかな発展のための協議に向けて—



令和5年（2023年）12月9日

日 本 学 術 会 議

この声明は、日本学術会議第 190 回総会において決定したものである。

日本学術会議のより良い役割発揮に向けた基本的考え方（案）  
—自由な発想を活かした、しなやかな発展のための協議に向けて—

令和5年12月9日

日本学術会議は、ナショナルアカデミーとして、より良い役割発揮を実現することが最も重要であると考え、多様な主体と対話を重ねながら、精力的に自主的改革を行ってきている（「より良い役割発揮」、アクションプラン骨子参照）。「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会」においても、日本学術会議の機能強化に対する強い期待が示されている。しかし、令和5年4月の政府案（国存置案）についてはすでに指摘したような看過しがたい問題（令和5年4月総会声明）があり、今回、政府により提案された法人化案にも「総会資料4」のような懸念がある。

日本学術会議の機能を維持・強化するためには「より良い役割発揮」で示した5要件を充足することが不可欠であり、何らかの組織変更を行うとしても、とくに次の点が充たされる必要があると考える。

第1に、活動面での政府からの独立性を確保し、時宜に応じた迅速な対応を可能にするために、組織運営に関する法定事項を必要最小限にとどめ、規則制定権の範囲を拡大することにより、評価制度等を含め、柔軟で自律的な組織運営を保証すべきである。

第2に、会員及び会長の選考に当たっての自律性・独立性の確保は、どのような設置形態をとる場合にも維持されなければならないものであり、各国のナショナルアカデミーにおいて最重要視されている事項の1つである。日本学術会議は、会員選考プロセスの透明性の向上等、必要な改革を自主的に行い、今期の会員選考においても、その効果が顕著に現れており、さらなる改革の要否及びその内容は、日本学術会議により、自律的・独立的に決定されるべきものである。

第3に、今回の改革は、日本学術会議の機能強化につながるものでなければならず、活動の核心を成す政府への勧告機能も含め、万が一にもその実質的機能が減ぜられることのないように確保する必要がある。

第4に、日本学術会議がナショナルアカデミーとしての機能を十分に発揮するとともに、科学的助言の中立性を確保するためには、国の責任において、安定的な財政基盤が継続的に確保されるようにすべきである。現在の予算規模は、より良い役割発揮を可能にするものとはいえ、組織形態にかかわらず、国による財政支援の強化が必要である。

第5に、組織改革に国民の理解を得られるようにするとともに、一刻も早くより良い役割発揮の実現に邁進できるようにするためには、組織改革に係る行政コストを勘案し、必要不可欠の改革を最も有効かつ効率的に行うことのできる案とすべきである。

以上の点に鑑みると、現在政府から示されている改革案は、日本学術会議の自主的改革に必要な方策を十分協議したうえで作成されたものということとはできない。日本学術会議は、法人化するか、国に存置するか議論に拘泥することなく、以上の懸念点を解消する方策を含め、自由な発想を活かした、しなやかな発展のために、関係者との継続的な協議を望むものである。

以上